

第6学年2組 音楽科学習指導案

指導者 瀧原 千絵

1 題材名 和音の美しさを味わおう

教材名 表現「星の世界」(川路柳虹 日本語歌詞、コンバース 作曲、飯沼信義 編曲)
「和音の音で旋律づくり」
「雨のうた」(鹿谷 美緒子 作曲)

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A 表現 (1) エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
(2) エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
(3) ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

[共通事項] (1) ア (ア) 音色、リズム、旋律、音の重なり、和声の響き、フレーズ
(イ) 反復、変化、問いと答え、音楽の縦と横の関係

(1) 題材観

本題材は、和音及び和声の響きの美しさを味わうことをねらいとしている。児童はこれまでに旋律が重なり合う響きを歌や器楽から感じ取ってきたが、5年生で2つ以上の音が重なる和音という言葉を知り、和音の響きの違いや移り変わりを感じ取ることができた。また、音楽づくりの学習では、繰り返しや変化を使ってリズムをつくったり、決まった音の中から自分の好きな音を選んで旋律をつくったりと経験を重ねてきた。今回の音楽づくりは、今までの小学校で行ってきた音楽づくりのまとめであり、和音に含まれる音を使った旋律づくりを通して、和音の響きを味わいながらまとまりのある旋律をつくる力を身につけさせたい。

(2) 児童の実態 (男子13名 女子15名 計28名)

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。また、通年で活動している特設吹奏楽クラブに学級の半数以上の児童が参加しており、音楽への意欲は高い。リコーダーの学習を好み、音楽の学習の時間だけでなく、休み時間や帰りの会ではポップスなどの曲も演奏して親しんでいる。

音楽づくりでは、音楽の技能に不安がある児童も、ルールの中で自由につくると自分だけの音楽ができることを好んでいる。しかし、簡単にしたいから、何となくなど、思いや意図をもって

つくるところまで至っていない児童もいる。また、その時間に自分なりにつくったものを次の時間になると忘れていたことも多々ある。即興的につくったもので愛着をもてていないこと、記譜で形に残してもそれが読めないことなどが課題となっている。

5年生で和音の学習をしてから、授業の始めと終わりの楽音は、日直が担当している。I度は赤、V度は青のシールを鍵盤に貼って和音の響きと鍵盤の場所の関係が定着するように試みている。また、和音当てクイズなども常時活動で行い、少しずつではあるが、I度、IV度、V度の響きを聴き分けられるようになってきている。

これらの実態を踏まえ、児童が日常生活で親しんでいるポップスにも使われる、繰り返される和音進行を用いて、新たなVIの和音の響きに親しませるとともに、音楽の学習と日常的な音楽が遠くないことを実感させ、和音の響きに合った旋律をつくらせたい。また、一人一人がつくった旋律を組み合わせてつなげる活動を通して、友達の旋律との違いやそれぞれの良さに気づき、自分がつくった旋律に愛着を持って活動に取り組むことができると考える。

(3) 指導観

本題材では、第一次で、「星の世界」を3部合唱する。この曲は、3段目以外主な旋律①と和音に含まれる音でつくられた平易な②③の旋律で構成されており、初めての本格的な3部合唱に取り組みやすい楽曲である。②③のパートを伸ばして歌い、和音の響きを確認しながら、さらに①のパートを重ねて歌い、和音の響きの移り変わりを感じ取りながら歌わせたい。また、主な旋律を生かすような音量のバランスを考えるようにする。

第二次では、「I-VI-IV-V」と移り変わる和音と低音を聴き取り、和音の響きの移り変わりを感じながら、その和音に含まれる音を使って4分の4拍子で2小節の旋律をつくる。今回は5年生で学習したI、IV、Vの和音進行を基盤とし、さらにVI度の短三和音を加える。長調のI-IV-Vの和音進行の中に短三和音を取り入れることによって、児童が日常的に触れているポップスの響きに近づき、親しみをもって意欲的に音楽づくりに取り組めるものと考えられる。また、短三和音の響きに対する意識を持たせることができるであろう。

最後にVの和音にすることで、Iの和音に戻ってつなげて繰り返すことができる和音進行にした。児童は、移り変わる和音の響きを感じながら自分の旋律をつくり、友達の旋律と組み合わせることで1つの音楽をつくる活動を行う。4人のグループで1つのまとまりのある音楽をつくる活動を入れることで、お互いのつくった旋律の違いやよさに気付くことができるであろう。そして、音楽の仕組みを生かして、旋律の上がり下がり、音の跳躍、リズムなどそれぞれの特徴に合った組み合わせ方を児童自身が模索して、1つのまとまった音楽をつくることのおもしろさを味わわせたい。

第三次では、「雨のうた」を合奏する。この曲は三部形式でできており、イ短調-ハ長調-イ短調となっている。イ短調の部分では、第二次の音楽づくりで扱ったVI度の短和音が、I度の和音として繰り返し現れ、合奏を通して短調の和音の響きの移り変わりを感じとらせることができるであろう。音楽づくりでの学習を生かし、長調と短調の和音の響きの違いを味わいながら合奏させたい。

3 題材の目標

- 和音の響きの変化を感じ取りながら、各声部の歌声や楽器、全体の響き、伴奏を聴いて合唱したり、合奏したりする。
- 和音に含まれる音を用いて、まとまりのある旋律をつくる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 各声部の歌声や全体の響きに興味・関心をもち、自分の声を調和させて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 和音の響きや移り変わりに興味・関心をもち、和音に含まれる音や与えられたリズムを使って旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 ③ 自分たちの旋律に愛着をもってよりよく仕上げようとしたり、練習したりしている。友達の旋律と自分たちの旋律の違いや良さを感じ取り、旋律と和音の響きの調和を楽しんでいる。 ④ ハ長調やイ短調の楽譜を見たり、範奏を聴いたりして、楽器で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 歌声の重なり、和音やその移り変わり、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、歌い方を工夫して、より美しい響きを自ら求めている。 ② 音楽の仕組みを生かし、旋律の上がり下がりや音の跳躍、リズム、つながりを意識して、まとまりのある旋律に仕上げようとしている。 ③ 楽器の音の重なり、和音やその移り変わり、調の違い、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、楽器の演奏の仕方を工夫して、より美しい響きを求めている。	① 互いの歌声のバランスを聴き合いながら、バランスに気を付け、溶け合うように歌っている。 ② 和音の構成音から個人でつくった旋律のリズムや音を工夫して、自分なりのまとまりのある旋律をつくっている。 ③ 互いの音を聴き合いながら、和声の響きの違いや旋律の重なり方の違いを生かして、バランスのとれた演奏をしている。

5 研究の視点について

【視点1】 9年間を見通した学び方の共有

○児童の交流

音楽は個人で楽しむ側面と、学校教育だからこそその合わせる喜びや、他者との交流によっての広がりや深まりがあると考えている。音楽づくりの活動の出発は個人だが、他者との交流をもつことで、自分がつくったものを見つめ直し、他者との違いや互いの良さを感じることができよう。また、他者の演奏や発言を受けて変容していくことも予想される。そういった活動を小学校から積み重ねていくことで、中学校でより難しい曲や複雑な音楽づくりの学習となったときの下地になると考える。

本題材では、和音を使った旋律を個人でつくった後、4人でまとまりのある音楽をつくるというグループ活動を行う。4人組は話し合いをやすく、区切りのいい音楽をつくるのに適当であ

ると考える。交流活動を円滑に進めるために、各グループに前時までに個人でつくった旋律カードとそのカードを並べる枠組みが書かれたグループボードを用意する。そして、グループボードの上で旋律カードを並び替えながら演奏し、まとまりのある音楽となるよう試行錯誤できるようにする。

○活動の積み重ね

本題材の和音を使った旋律づくりは、中学校の旋律創作に直接つながっていく題材である。小学校低学年から決められた音から自分が好きな音を選んで旋律をつくっていく活動を通して、音楽のルールの中でなら自分の思いや意図をもって旋律やリズムを作れること、そのどれもが自分にとって価値のある音や音楽となること、自分で作曲家のようにつくっていいことを体感してきている。使う音の数、つくる長さ、リズムの選択など、発達段階に応じて表現の幅も広がってきている。最終的には、詩に旋律をつけるという中学校3年生の教材につながる。小学校からリズム、旋律の上がり下がり、和音の響き、始まる感じや終わる感じ、繰り返しや変化などの音楽の仕組みなどの学習を積み重ねていくことが必要である。旋律づくりに必要な枠組みを活動を通して少しずつ身につけていくことが、9年間を見通した学び方の共有になると考える。

6 題材の指導計画（10時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な活動	評価規準
第1次		ねらい 歌声が重なり合うひびきを感じながら合唱する。	
	第1時	○「星の世界」の曲全体の感じをつかみ、主な旋律を歌う。 [旋律・音の重なり・音楽の仕組み] ・範唱を聴き、主な旋律に副次的な旋律が重なっていることに気づき、3部合唱に意欲をもつ。 ・主な旋律の拡大譜を見て、曲のつくりについて気づいたことを話し合う。 「2段目と4段目が同じ。」「3段目は1・2・4段目と違う。」「どの段もリズムは同じ。」 ・旋律の動きに気を付け、伴奏の響きを感じ取りながら主な旋律を歌う。	各声部の歌声や全体の響きに興味・関心をもち、自分の声を調和させて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①)
	第2時	○響きをかめながら、②と③のパートを歌う。 [旋律・音の重なり・音楽の仕組み・和声の響き・音楽の縦と横の関係] ・2小節ずつ音程を確認しながら歌う。 ・音程と和音の響きを確認しながら歌う。	歌声の重なり、和音やその移り変わり、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、歌い方を工夫して、より美しい響きを自ら求めている。 (音楽表現の創意工夫①)

	<p>○互いの歌声をよく聴き、和音の響きやその移り変わりを 感じ取りながら合唱する。 [旋律・音の重なり・和声の響き・フレーズ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律を生かすように、音量のバランスを工夫して歌う。 ・互いのパートや伴奏の響きを聴き合いながら、友達の歌声と溶け合わせて合唱する。 <p>○「星の世界」の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの合唱の録音を聴き、声による和音の響きをつくることができたか振り返る。 ・楽曲の形式を生かした練習を振り返り、今後の表現活動にも生かせることを確認する。 	<p>互いの歌声のバランスを聴き合いながら、バランスに気を付け、溶け合うように歌っている。 (音楽表現の技能①)</p>
第2次	<p>ねらい 和音に含まれる音を用いて、まとまりのある旋律をつくる。</p>	
	<p>○ I－VI－IV－Vの和音に含まれる音を使って、旋律をつくる。 [旋律・音の重なり・和声の響き・フレーズ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I→VI→IV→Vの和音と共に創作例を聴く。 ・ 4つの和音と低音を鍵盤楽器で演奏して、響きの移り変わりを確かめる。 ・ 和音に含まれる音を1つずつ選び、二分音符4つで2小節分の旋律をつくり、ワークシートに階名を書き込む。 	<p>和音の響きや移り変わりに興味・関心をもち、和音に含まれる音や与えられたリズムを使って旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度②)</p>
	<p>○前時につくった二分音符4つ分の旋律を、リズムや音を工夫して気に入った旋律に仕上げる。 [リズム・旋律・和声の響き・フレーズ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作例の創作過程を紹介して、リズムや音の工夫の仕方に見通しを持つ。 ・リズム例を参考に前時につくった旋律のリズムを変えたり、同じ和音の他の音や経過音を入れたりして気に入った旋律に仕上げる。 ・ワークシートに作った旋律を記譜し、工夫点などを記述する。 ・次時、4人の旋律を組み合わせて「星の世界」のような1つの音楽をつくる見通しをもつ。 	<p>和音の構成音から個人でつくった旋律のリズムや音を工夫して、自分なりのまとまりのある旋律をつくっている。 (音楽表現の技能②)</p>

	第6時 (本時)	<p>○グループに分かれ、音楽の流れや響きを感じながらまとまりのある音楽にしていく。</p> <p>[旋律・音楽の仕組み・リズム・フレーズ・和声の響き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをつかむ。 ・4つの旋律の組み合わせ方を工夫して、1つの音楽をつくる。(形式、旋律の特徴を考えた順番、リズム、つなげる音) ・中間発表をする。 ・学習の振り返りをする。 	<p>音楽の仕組みを生かし、旋律の上がり下がりや音の跳躍、リズム、つながりを意識して、まとまりのある旋律に仕上げようとしている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫②)</p>
	第7時	<p>○グループで練習し、つくった音楽を発表し合う。</p> <p>[旋律・音楽の仕組み・リズム・フレーズ・和声の響き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそうしたのかという思いや意図をグループで共有する。 ・必要に応じて終わりの2小節を各グループでつくる。 ・お互いの演奏を聴き合う。 	<p>自分たちの旋律に愛着をもってよりよく仕上げようとしていたり、練習したりしている。友達の旋律と自分たちの旋律の違いや良さを感じ取り、旋律と和音の響きの調和を楽しんでいる。</p> <p>(音楽の関心・意欲・態度③)</p>
第3次	ねらい 和音の移り変わりをしながら演奏する。		
	第8時	<p>○短調と長調の響きの違いに気を付け、曲の感じをつかむ。</p> <p>[旋律、調、音色、リズム、音の重なり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴き、アはイ短調、イはハ長調であることを理解する。 ・主な旋律と副次的な旋律をリコーダーで演奏する。 	<p>ハ長調やイ短調の楽譜を見たり、範奏を聴いたりして、楽器で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(音楽の関心・意欲・態度④)</p>
	第9時	<p>○長調と短調の和音の響きの違いを感じ取りながら、表現の仕方を工夫する。</p> <p>[旋律、和声の響き、調、音楽の縦と横の関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音と低音のパートを演奏する。 ・互いの音を聴き合いながら、主な旋律、和音、低音のパートを合わせて演奏する。 ・和音の響きやその移り変わりがより美しくなるように演奏の仕方を工夫する。 	<p>楽器の音の重なり、和音やその移り変わり、調の違い、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、楽器の演奏の仕方を工夫して、より美しい響きを求めている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫③)</p>

第 10 時	<p>○旋律の重なり方の違いを生かし、各パートのバランスを考えて演奏する。 [旋律、音の重なり、和声の響き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アとイで主な旋律と副次的な旋律の重なり方が違うことを確認して演奏する。 ・学級を2つに分け、グループごとにどのように演奏したらバランスよく聴こえるかについて話し合い、確かめながら演奏する。 ・グループごとに演奏して聴き合う。 	<p>互いの音を聴き合いながら、和声の響きの違いや旋律の重なり方の違いを生かして、バランスのとれた演奏をしている。 (音楽表現の技能③)</p>
--------------	--	--

7 本時の学習 (6 / 10)

(1) 目標

和音の響きやその移り変わりの美しさを味わいながら、まとまりのある音楽をつくる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
<p>1 今月の歌「トレロカモミロ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前奏のリズムをカスタネットや手拍子で演奏する。 <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I - VI - IV - V の和音の流れに合わせて、自分がつくった旋律を演奏して確認する。 	<p>○学習を始める雰囲気づくりをする。</p> <p>○リズムを忘れていた児童と一緒に演奏して想起させる。</p>
<p>4人の旋律を組み合わせて、1つの音楽をつくろう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教師の創作例と、形式の例の3曲の拡大譜を見ながら演奏を聴いて、どの形式を使った演奏か考える。 星の世界 aa'ba' ラバースコンチェルト abab' 茶色の小びん aa'bb' ・まとまりがある音楽にするためには、どんなことを工夫したらよいか考える。 形式 旋律の特徴を考えた順番 つなぎ目の音 リズム 	<p>○拡大譜を示して、旋律の流れが目でも確認できるようにする。</p> <p>○どの形式も、1番手と2番手、3番手と4番手の旋律が組み合わさっていることに気付かせる。</p> <p>○友達と組み合わせる中で、つくった旋律を変えても良いことを確認する。</p> <p>○感覚的な良さも大切にできるようにする。</p>

3 4つの旋律の組み合わせ方を工夫して、1つの音楽をつくる。

- ・お互いにつくった旋律を聴き合い、それぞれの特徴を書いて、何番手がよさそうか考える。
- ・どの形式が自分達の旋律に合いそうか見通しをもち、グループボードを選ぶ。
- ・グループボードに自分たちの旋律カードを置きながら、組み合わせやつながりのよい音、リズムを考える。
- ・実際に置いたものを演奏してみて、試行錯誤する。

4 中間発表をする。

- ・聴いていた人は、良かったところ、自分達のグループとの違いなどを発表したグループに伝える。

5 学習の振り返りをする。

- ・振り返りカードに、選んだ形式や自分の演奏する順番、工夫したところを記入する。

○各グループに支援に入る。

○4人の旋律がつながった班に全体の前で発表させ、他の班にも見通しを持たせる。

○オルガンの録音から、I-VI-IV-Vの和音が繰り返し流れているようにする。

◆音楽の仕組みを生かし、旋律の上がり下がりや音の跳躍、リズム、つながりを意識して、まとまりのある旋律に仕上げようとしている。

(音楽表現の創意工夫③)

〈活動観察・演奏聴取・発言・グループボード・旋律カード・振り返りカード〉

○形式が違うグループを2つか3つ選んで、発表させる。

○なぜ、その組み合わせにしたのか、演奏後に聞く。

○次時に完成させて発表することを伝え、意欲を持たせる。